

平成二十三年度の総合水産試験場の主な成果について

長崎県総合水産試験場 企画開発推進室

はじめに

総合水産試験場は、平成二十三年度に策定された「長崎県水産業振興基本計画」に基づいて実施される各種施策の推進に必要な科学的な根拠の提示及び技術支援を行っています。今まで以上に皆様のニーズを幅広く、きめ細かく収集して、その解決、実現を見据えた試験研究に取り組み、関係機関等とも連携してその成果を普及していきます。

今回は、平成二十三年度の当試験場の主な成果についてご紹介いたします。

漁業資源部の主な成果

【クエ放流種苗の成長】

平成十八年度に西海市大瀬戸地先で放流したクエ人工種苗（全長九センチメートル）が、平成二十三年の漁期に放流場所周辺で七尾再捕されました。五歳で全長五十四から六十八センチメートル、体重二・五から四・八キログラムに成長していることが分かりました。

【アワビの放流効果調査】

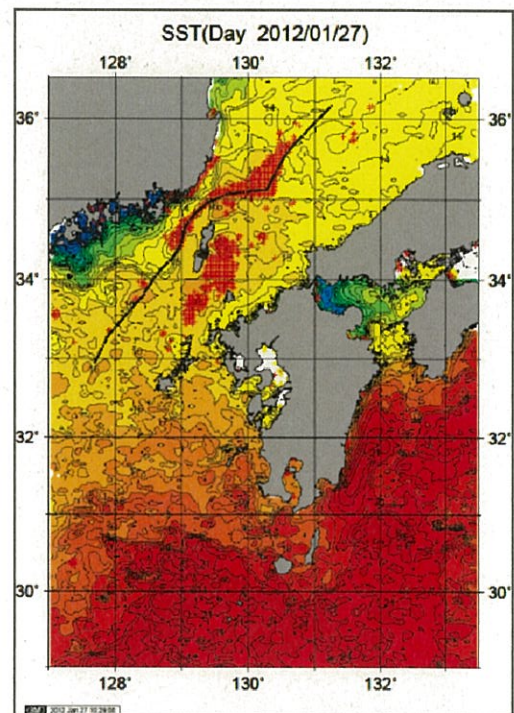
アワビ漁獲量の増大を目的に、効果的な放流サイズ、放流時期や場所についてまとめた「アワビ放流の手引き」を関係機関に配布しています。この「手引き」に沿って放流された平戸市内の二地区で調査を実施したところ、高い放流効果が得られていることが分かりました。県内の平均的な回収率（再捕個数／放流個数）は約五パーセントほどですが、この二地区では八・一、十四・二パーセントという結果となりました。

【ガザミ放流種苗の回収率】

平成二十二年六、七月に島原半島地先にC3（甲羅幅約十ミリメートル）とC5（同約二十ミリメートル）のサイズ別に放流したガザミを、近隣四県で連携して追跡調査しました。再捕したガザミのDNAを解析した結果、回収率はC3が一・一パーセント、C5が四・六パーセントと推定され、C5の大型サイズで回収率が大幅に向上することが分かりました。

【広域情報の提供】

漁業活動への支援のため、長崎県独自の「海面水温図」、「海面水色図」を新たにホームページに掲載するなど、漁海況情報の充実を図りました。また、ポスターサイズで関係機関に配布し、ホームページにも掲載していた「漁海況通信」については、携帯サイトでの配信も始めました。



「海面水温図」

第33-4号 平成23年12月2日

漁海況通信

長崎県水産総合振興部 漁業資源科 海洋資源課 FAX 095-638-6346
〒852-2212 長崎県中津島郡 野島 野島095-638-6344 FAX 095-638-6346
Eメール: info@fsh.kagasaki.lg.jp URL: http://www.marinehub.kagasaki.lg.jp

1. 漁海況通信-携帯電話版-の開始について

※ このたび漁海況通信をホームページ版に加え、新たに「携帯電話版(図1)」の提供を開始いたしました。
 ※ この携帯電話版は漁海況通信のエッセンスを取り上げた要約版として、お手軽に閲覧できます。
 ぜひ、皆様自身の情報源としてご利用ください。
 『水産試験場モバイルサイトアドレス』
<http://www.marinehub.kagasaki.lg.jp/mobile/>

2. 海水色画像(九州水温日報)提供の開始について

※ 水産試験場が提供している「九州水温日報(図2)」の新たな項目として、水色画像(人工衛星海水色画像:図3)が加わりました。
 ※ この水色画像は、植物プランクトン現存量の分布を示すものですが、海面の濁り具合の指標にもなります。
 ぜひ、水温画像と合わせてご利用ください。
 『水色画像サイトアドレス』九州水温日報ページ内
<http://www.marinehub.kagasaki.lg.jp/grabshp/index.aspx?n=23.html>





図1: 漁海況通信-携帯電話版-(一部)
 図2: 九州水温日報ページ
 図3: 水色画像(九州水温日報内)

ご不明な点は
 漁業資源部海洋資源科
 TEL: 095-638-6344 (国水、早業)
 まで、ご連絡ください。



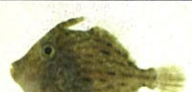

「漁海況通信」

種苗量産技術開発センターの主な成果

【新たな魚種の種苗生産】

増養殖対象魚種としてクロマグロ、クエ、シタビラメ類(メイタガレイ、コウライアカシタビラメ)、カワハギの種苗生産基礎技術の開発に取り組んでいます。

今年度は、次のとおり稚魚を生産しました。

クロマグロ	クエ
5.2千尾	270千尾
 (TL:70mm)	 (TL:35mm)
カワハギ	コウライアカシタビラメ
10千尾	28千尾
 (TL:35mm)	 (TL:30mm)

平成23年度の稚魚生産尾数

クエについては、これまで人工種苗に多く出現した頸椎部分の奇形を抑える技術に目処が付きました。

【マガキの種苗生産】

養殖種苗として、シングルシード(一粒種苗)の生産技術開発に取り組み、平成二十三年三月から五月の早期採苗により、一センチメートルサイズの稚貝を約十五万個生産しました。



出荷用シングルシード

【南方系ホンダワラ類の成熟】

藻場造成の新たな増殖対象種として期待される南方系ホンダワラ類七種の成熟時期等を調査しました。成熟の盛期は六月下旬から八月上旬、成熟期間は種により一、二ヶ月間で、その間ほぼ毎日放卵することがわかり、今後の藻場造成に応用できる知見を得ました。



南方系ホンダワラ類の1種
(キレバモク)

水産加工開発指導センターの主な成果

【新たな水産加工品の開発】

近年の減塩志向にマッチした食塩を使用しない干物の製造技術を開発しました。

また、アジなどの県産魚を対象に、糖類やリン酸塩を加えない新しい冷凍すり身を開発しました。

【オープンラボ等を活用した技術支援】

漁協、民間加工業者の新商品開発を支援しました。平成二十三年度は、食塩を使用しない干物の製造技術による味付焼あご、カキオイル漬け、電子レンジ調理焼魚などが開発されました。また、スルメイカ肉を用いたねり製品の開発を支援しました。



味付焼あご



大村湾育ちのうず潮
カキオイル漬け



焼魚物語
(電子レンジ調理焼魚)

環境養殖技術開発センターの主な成果

【有明海から橘湾への低塩分水塊の流れ込み】

平成二十一年、二十二年に有明海・橘湾で甚大な漁業被害を出したシャットネラ赤潮は、有明海で広域に発生したものが、大雨の影響により低塩分の海水とともに橘湾に流れ込んだものと推測しています。平成二十三年に広域の調査を行ったところ、有明海から橘湾への低塩分水塊の流れ込みが初めて観測され、この推測が裏付けされました。

【対馬の真珠漁場における餌環境】

平成二十三年一月から連続で漁場の餌の量を観測したところ、六月下旬と八月中下旬に量が多いことがわかりました。両時期ともにまとまった降雨があり、降雨後の栄養塩の増加が影響したものと考えられました。

【クエ養殖技術の開発】

新たな養殖魚種として期待されているクエの養殖技術の開発に取り組んでいます。餌料（配合飼料）中のたんぱく質含量が五十パーセント以上で高い成長を示すことがわかりました。現在、適切な脂肪含量や、さらに成長を改善するための餌料添加物の効果について試験を行っています。

【養殖魚の安全、安心の確保】

養殖ヒラメ筋肉に寄生した新種の粘液胞子虫（クドア・セプテンpunkタータ）が一過性の食中毒に関与していることが国により公表されました。当試験場では、種苗生産・養殖中のヒラメを検査するとともに、書面での結果提供や検査技術の研修を実施し、養殖魚の安全・安心確保に寄与しました。

おわりに

これらの成果は、最近の主な成果（平成二十三年度版）として三月末に冊子で発行し、関係機関に配布することとしています。また、ホームページには、冊子のバックナンバーを掲載していますのでご覧ください。総合水産試験場は、今後も「開かれた試験場」として情報の発信に務めていきます。是非、ご意見、ご要望をお寄せいただきますよう、よろしくお願い致します。

（担当 上利貴光）

長崎県総合水産試験場

○電話番号 095-850-6293

○ホームページURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

○携帯サイトURL

<http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/mobile/>

※右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダー機能で撮影すると携帯サイトへジャンプします。

